

## 青木たかし活動レポート

1989年（平成元年）12月30日松本市岡田生まれ。松原在住。

本郷幼稚園、明善小・中学校、松本深志高校60回卒。公立高崎経済大学在学中に衆議院議員公設秘書へ。現在、松本市議会議員二期目（無所属）。会派開明代表、総務委員会副委員長、政策部会長（令和元年）。松本青年会議所・松本中央ライオンズクラブ・保護司・松本法人会所属。

青木たかし 松本 検索

### 「選ばれる松本」 を目指すための 4つのテーマ

【テーマ1】 待機児童をなくし、  
若者が帰ってこられる地域へ

【テーマ3】 道路整備と公共交通拡充を進め、  
渋滞緩和策を研究する

【テーマ2】 松本城お堀の泥除去・外堀復元等  
で保存・活用を進める

【テーマ4】 次世代にツケを残さない、二元代  
表の議論する議会へ

## 市議二期目4年間のうち、最初の一年が終わりました

2019年4月の松本市議会議員選挙にて3,978票をいただき、二期目に再選させていただいて以来、最初の一年を終えました。令和2年も初心を忘れず、市政全体の発展に寄与できるよう全力で取り組んで参ります。

なお、公職選挙法により、政治家は選挙区内の有権者へ暑中・寒中見舞状等の挨拶状を送ることが禁止されています。年賀状も出すことはできませんが、頂いた場合には答礼を送ることのみ可能です。大量に発送できるような資金力のある候補者が有利にならないようにするためとされています。さらに、お年玉付き懸賞はがきを送ることも、寄附行為にあたるため禁止されています。心苦しいのですが、ご理解を頂ければ幸いです。ちなみに、インターネット上で新年の挨拶を述べることは、禁止されていません。



2020年元旦の日の出の後、出川一丁目交差点から撮影した山並み。澄んだ冷たい空気に、朝焼けが綺麗に映えています。松本に住んでいて良かったと思える瞬間のひとつです。

## 3月15日松本市長選。「議論深まらず」とならない為に

菅谷市長は11月8日の市議会臨時会において、今限りで引退することを表明されました。これにより、3月8日告示、15日投開票となる松本市長選挙は、**現職引退後に新人同士が争うこととなり、これは戦後の松本市政において初めての構図となります。**

元号は令和に代わり、情報技術の発達により個人の情報発信が容易となったことで、市民力はますます高まっています。これからの松本市には、市民一人ひとりがそれぞれの幸せや豊かさを追求

- でき、税金の使いみちに納得感を得られるような
- 市政運営が求められます。また、健康寿命延伸都
- 市を發展させた、次の10年間のまちの姿・フレー
- ズ・哲学が打ち出される選挙となるべきです。
- 普通選挙運動発祥の地として、そして、議論す
- る松本市民として、開票翌日に「議論深まらず」
- と評されることのない市長選となるよう、私もで
- きることに取り組みたいと思います。私の元旦付
- けのブログ記事にて、市長選の各予定者の情報を
- 随時更新しているので、そちらもご覧ください。

## 【テーマ2】

### 松本城お堀の泥除去・外堀復元等で保存・活用を進める

公約2の松本城の汚泥浚渫と外堀復元について、12月定例会の一般質問に登壇して質問を行いました。

**【質問】青木崇：**2020東京五輪に向けて、東京都は26年ぶりに、皇居周りの外堀の底に堆積しているヘドロを除去している。松本市でも外国人観光客が増えているが、松本城のお堀浚渫の方針は。

**【答弁】教育部長：**平成30年度、令和元年度に浚渫に必要な基礎データ取得のための総合調査を実施した。令和2年度、この調査結果をもとに堀に適した工法を選択するための実証実験を行い、年次計画を策定する予定。できるだけ早期に全面的な浚渫工事に着手したいと考えている。



平面整備をイメージした外堀の模型

**【質問】青木崇：**次に、松本城の外堀復元事業について。取得した用地から基準値を超える自然由来の鉛汚染が判明して以来、地権者に除去費用を求められないことから、お堀の掘削ではなく、芝生等による平面整備に松本市は方針転換した。方針転換後、2018年12月議会にて、復元の可能性について次の項目について各種質問した。

- ①民法上10年の時効成立後の掘削
- ②土壤汚染対策法施行規則第25条に基づく、50センチメートル未満の掘削
- ③自然由来の土壤汚染に関する平成31年4月施行の改正土壤汚染対策法に基づく、外堀の一部復元
- ④新たな契約書における土地取得契約の条項に基づく、土壤汚染処理費用の公費負担
- ⑤ふるさと納税、外堀復元基金、住民参加型公募債による汚染土壌処理費用の支出

当時の答弁では、公金支出の適正性や二重投資防止の観点からそれぞれ困難であり、第三者の寄附による汚染除去が現時点での解決策のひとつというのが市の見解であった。その後、2019年2月開催の地元説明会では、外堀の掘削による復元を望む痛切な声が多く出されたが、そのときの市の説明として

- ①堀の掘削による復元を諦めたわけではない
- ②平面整備が固定化してしまわないように、平面整備後に公園として活用するかどうかは慎重に検討する
- ③平面整備後、芝生にするのか、公園にするのか等、進め方も含めて地元の意見を聞きながら進める
- ④4億6千万円かかる汚染処理費用の費用圧縮方法を研究する

といったことが示され、市は住民と協力しながら、一緒に問題解決に向けて取り組んでいくことで説明会は締め括られた。

令和元年度に入ってから、松本城管理事務所内に城郭整備担当課が新設されたが、お堀掘削による外堀復元に向けた今後の取り組みは。

**【答弁】教育部長：**令和元年度より松本城南・西外堀復元に関する部局横断組織を庁内に設置し、整備のあり方に対する考え方や課題への対応を進めている。また、市民からの堀復元に向けた様々なご意見に対しても、庁内組織内で検討するとともに、文化財復元の諸課題について、引き続き法律上の解釈の調査・研究、関係省庁に働きかけを進める。今後は、令和元年度末までに庁内の意見を集約する中で、令和2年度以降は市民の意見を聞きながら具体的な整備内容等を検討する予定である。

Twitter : @aoki1230 facebook : 青木崇 Instagram : 青木崇 公式LINE : @aoki-takashi

青木たかし事務所  
aoki-takashi.com

TEL 0263-50-8226 (個人携帯直通番号)

FAX 0263-50-8735 Mail taoki1230@gmail.com

## 【テーマ4】

### 次世代にツケを残さない、二元代表の議論する議会へ

今の市政の重要案件は、新庁舎建設事業です。11月20日の松本市議会新庁舎建設特別委員会に、現在地で建て替える新庁舎建設に向けた基本計画案が示されました。

現庁舎の解体費を含む概算の建設事業費を176億3000万円程度（隣接民有地の買収費用・移転費・建替中に事務を行う民間施設の借り上げ料は含まず）とし、埋蔵文化財の発掘調査を丁寧に行うため、予定を1年遅らせて令和8年度途中から新庁舎を使用開始とする事業スケジュールが示されました。11月の特別委員会では、議論を重ねるため、了承とせず継続協議としています。私は特別委員会に所属していないため、12月定例会一般質問にて、新庁舎建設の財源内訳の明確化と、新庁舎の「コンパクト+ネットワーク」の実現について、質問を行いました。



**【質問】 青木崇：**11月の基本計画案には財源内訳が示されていない。財政見通しはどのようなのか。

**【答弁】 財政部長：**今後、新庁舎が完成するまでの7年間に、庁舎建設基金に積立てを進め、事業費の半分程度の基金を持ちたい。残りの事業費は、市債によって賄うことになると思う。本市の市債残高は、平成17年度末の973億円をピークに、平成30年度末には735億円まで減少。庁舎建設の財源として、仮に100億円を借り入れても、ピーク時に比べ、相当少ない水準を維持することができる。基金の積立てが予定通りに進まない場合、市債の活用額が増えることもあり得る。そのため、交付税措置のある有利な起債の活用についても検討を進めている。財源活用の割合や金額、地方債の償還の見通しについては、不確定な要素が多いが、これまで健全財政の堅持に努めてきた結果、財政は安定しているので、今後の市政運営に大きな影響が生じることはない。

**【質問】 青木崇：**民間では働き方改革が進み、オフィス外や地方での遠隔地勤務も始まっている。さらに、5Gという次世代通信規格も2020年春から始まる。11月の基本計画案では、あらゆる行政手続やサービスがオンラインで完結する未来を見据えているが、一方で、市内各所に配置する組織を統合し、1,097人の職員を本庁舎一カ所に集約することとされている。新庁舎使用開始となる令和8年の働き方や行政ニーズを見据えて、市内に職員を分散させることで、世界遺産登録を目指す松本城横の庁舎の建設規模をコンパクトに抑えるべきではないか。



出典：松本市新庁舎建設基本計画（案）

**【答弁】 政策部長：**一部の民間企業では、ICT技術を活用したコールセンターやサテライトオフィスのような遠隔地勤務が導入されている。今後、国の進めるデジタルファーストや5Gが普及していけば、本市でも、従来、本庁に配置するとしていた組織の中で、窓口機能とバックヤード機能の住み分けが進み、必ずしも本庁にとらわれない遠隔地勤務を本格的に導入できる可能性があると思う。将来を念頭に置いて、新庁舎に配置する職員数を再検討している。「コンパクト+ネットワーク」の実現方法は、新庁舎建設特別委員会、市民懇話会、市民説明会でも多くのご意見をいただいたので、現在実施中のパブリックコメントなどのご意見と併せ、引き続き検討していく。



子どもたちに議員の仕事の説明



テレビ松本にて、総務委員会による調査テーマ「市内の投票環境整備」の進捗報告



村井商工親和会の地酒夢来の新酒発表会で挨拶。今年から酒米を使った純米吟醸を醸造



会派開明の8人と行動しています



子ども虐待防止啓発運動にスタッフとして参加。被虐待児の保護施設にて、園内の子どもの向け行事の支援もさせて頂きました



信州大学のキャリア教育授業にて



松原モールに、住民の皆様と電飾を飾り付け。ありがとうございます。



子どもの自己肯定感を高める自然保育を推進する議員連盟に参加



台風19号が過ぎ去った翌朝の女鳥羽

令和元年の台風19号は県内に甚大な被害をもたらしました。被災された皆様にお見舞い申し上げますとともに、亡くなられた方のご冥福をお祈りいたします。

県内の被災地にも赴き、状況をお伺いしたり、避難所運営のお手伝いにも携わらせて頂きました。佐久市では、緊急時には一定数の方が親族の家などに寄ろうと考えるようで、その経路のハザードマップを確認したことがなく、氾濫危険箇所についての知識がないことで被害が出てしまったという話をお聞きしました。また、避難生活の質を向上することについても、さらに検討が必要と感じています。

私は総務委員会に所属しているため、聞こえない防災無線の対策や、インターネットを使った情報発信のあり方について意見しました。固定電話に緊急情報を流す仕組みを検討しているとのこと。

